

高山 : 尾木ママ、もうすっかり春ですね。

新学期。先生方はどんなお気持ちの季節なのですか？

尾木 : もうね、これはドキドキだけでも…。何か素敵なことがありそうだとか、今度はこんな学級にしてみたいとか、夢や希望も持っているのよ。

高山 : 確かに、新しい物語が始まる、そんな季節ですね。

今日は話したくて皆さんうずうずされていますので…。尾木ママあちらに行きましょう！

ここは、悩める保護者「ホゴシャーズ」が集まるファミリーレストラン。

さあ、今日もふだん言えない悩みをさらけ出していただきましょう！

### 【今回のホゴシャーズ】

カワウソ (母) : 長男・高2/次男・高1/三男・中1

オパール (母) : 長男・中3/次男・中1

ローズマリー (母) : 長女・小5/長男・小3/次女・2歳

カピバラ (母) : 長女・小3/次女・年少

つくし (母) : 長女・小5

すずらん (母) : 長女・中1

チェリー (母) : 長女・中3/次女・小1

パキラ (母) : 長男・小5/次男・小2

高山 : 尾木ママ！今日、実は保護者会の達人とおっしゃる方がいらっしゃいます。

尾木 : え！？達人！？保護者会に達人がいるの？

高山 : カワウソさんです (笑)

カワウソ : そんなことないですけど…。

高山 : どのように、達人なのですか？

カワウソ : 保護者会に行く前に、お友だちとお茶しながら今日の保護者会はどうかなっていう話を…。

尾木 : ひょっとしてそれは、作戦会議！？ (笑) 怖い、怖い。

カワウソ : その後、保護者会に行って、保護者会が終わった後にまた保護者会の内容の話をして…。その後家に帰ったら、また連絡をしあって…。

尾木 : それで、肝心のその保護者会では、ちゃんと盛り上がって話を先生も一緒にできているの？

カワウソ : そうでもないんですよね。意外と納得いかないことが多いので、帰り際に、やっぱりこうだったよね、ああだったよねって愚痴になる感じなんです。

尾木 : あの、僕が現役の頃はね、下駄箱PTAって言っていたんですよ。

つまり、教室を出て下駄箱に行くとみんな本音が出て、わーっと喋るわけ。だから、そうじゃなくて教室の中で下駄箱だと思って、みんな喋ってねって僕なんか言っていたの。今はファミレスに行っちゃうんだ (笑)

すずらん：私は、保護者会はちょっと欠席派です。

尾木：あら、あら、あら。

高山：理由は？

すずらん：帰りたい (笑)

尾木：帰りたいって…。

すずらん：保護者会イコール役員決めってというようなイメージがありまして…。



高山：あ！！今日はなんですか？これ。(覆面の参加者を見て)

オパール：これ素颜です (笑)

高山：何をおっしゃっているのですか (笑)

今日は、覆面してでも言いたいことがあるオパールさんのように、皆さん言いたいことをそれぞれお持ちですから。

今日は積極的な保護者会を。ここから日本の保護者会を変えるぐらいの勢いでね！ (笑)

本日のメニューは「新学期のお悩み」

そこで、新学期を迎えるにあたって何を思っているか、春休みの子どもたちに聞いてみた！

男子：なんか、友だちをつくるとき大変かな…。

女子：先生がやっぱり2年生で重要だから、それがちょっと不安です。

そう、新学期には「悩んでいる子」も多いのだ！

男子：遊びのことが不安で、いろんなグループに分かれてやるから、仲間外れにならないかなと思う。

女子：怖い先生がいたら、勉強ができなくなっちゃう。

男子：先生が2年間同じだったんですけど、次はたぶん変わると思うから、それで大丈夫かどうかちょっと心配です。まあ、うまくできなかつたら、一回家族にも相談してみますね。

女子：6年生になると、荷物とかも多いので…。

女子：結構忘れ物しちゃうときもあるし…。

一方、親も・・・

番組アンケートによると、新学期が不安な人は、なんと 94% もいる！



「子どもが新学期は緊張で体調を崩す」「いじめに合わないか心配…」  
など、さまざまな不安の声が寄せられた。

さあ、どう乗り切る？新学期！

今日は、特にお悩みの多かった「友だち」「先生」「忘れ物」3つについて考える！

高山 : 確かに環境が、がらっと、変わるので人間関係が悩みになるっていうのはわかるのですが、忘れ物っていうのも結構大きな悩みなのですね。

尾木 : 学年が変わると持ち物も増えるの。それから先生が変わるとね、今までの先生は、辞書は置いていていいとか、今度の先生は毎回持って来いっていうだとか、先生によってもそれぞれルールがあるでしょ。授業のルールとか。



高山 : ローズマリーさんが小さくなっちゃっていますけれど。お悩みなのですね？息子さん。

ローズマリー : はい。毎日とは言わないですけど、大きい忘れ物から小さい忘れ物まで…。

高山 : ローズマリーさんのお宅にカメラが入りました。こちらの映像をご覧くださいませ。

ローズマリーさんのご長男、しゅんすけくんは、とにかく忘れ物が多い！！  
母のローズマリーさんが、毎日つきっきりで、一緒に学校の準備をしている。

しゅんすけ：音楽。

ローズマリー：次！

しゅんすけ：これは使わない。

ローズマリー：ドリルはもういいの？

ローズマリー：筆箱はどうするんだっけ？

しゅんすけ：鉛筆がどんどんなくなってる。

ローズマリー：削った方がいいんじゃないの？

なぜ、ここまでする様になったかというところ・・・

ローズマリー：2年生に上がって、ここまで親がみるのはどうなのだろう、ちょっと自立してほしいと思っ  
て、あえて目を離していた時期があったんですね。そしたら、成績表のほうに「C」が  
ついてしまって。やっぱり忘れ物が多いと…。

今はお母さんが手伝って、何とか忘れ物なしで学校へ送り出す毎日。  
ところが・・・！問題は学校から帰って来た時・・・

帰ってきたしゅんすけくんの持ち物をチェックしてみると・・・

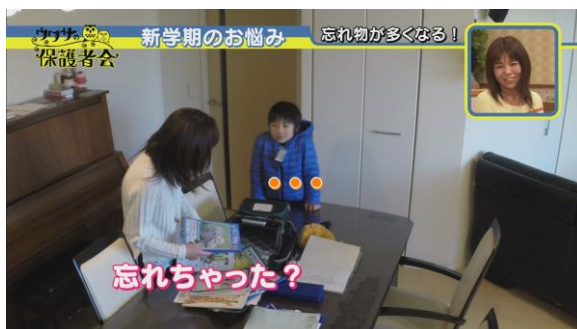
ローズマリー：あれ…しゅん。算数のノートは？

しゅんすけ：……。

ローズマリー：忘れちゃった？

しゅんすけ：持って帰ってきてない。

ローズマリー：また忘れた？



家に持ち帰らなければいけない物を学校に置いて来てしまうのだ！  
これには、お母さんも手が出せない。

ローズマリー：マスクは？

しゅんすけ：学校です。

ローズマリー：マスク、毎日洗わないと汚いんだよ！

ローズマリー：あの、消しゴムはどこにあるんでしょうか？赤鉛筆と！

しゅんすけ：(学校に) あるから大丈夫！

ローズマリー：忘れ物しないでください！

しゅんすけ：ハイハイ。

ローズマリー：ハイは1回！

しゅんすけ：ハイハイ。



しゅんすけくん、何でそんなに忘れ物しちゃうんだろう？

しゅんすけ：なんか、遊びたいから早く。

ろうかを出て、早く出発できるようにして、すぐに走ってダダダって帰って来ちゃう。

なるほど。早く遊びたいあまりにあわてて学校を飛び出すから、持ち物のことを気にする暇がないのだ！  
だけど中には、絶対忘れちゃいけない物もある！

ローズマリー：漢字のドリルの宿題があって、それをやらなきゃいけないのに、漢字ドリルを忘れてくる事が何回かあったんです。

しゅんすけくん！ドリルがないと、宿題、出来ませんから！



そんな時ローズマリーさんは、慌てて近所のママ友に頼み、ドリルをコピーさせてもらう、携帯のカメラで問題を写して送ってもらい、それを見ながら答えを書くなどして、急場をしのごう。

新学期は、学年が上がってドリルも増える！ お母さんの不安は高まるばかりだ。だから、宿題をちゃんと持ち帰ったかのチェックも、思わず厳しさアップ。

ローズマリー：紹介文を読んで一言もらうって書いてあるけど、紹介文がないんだけど！！

そう、ローズマリーさんのもう一つの悩みは、言わないと何もやらないと思うあまり、ついつい口うるさくなってしまうこと。

ローズマリー：もうすぐ3年生になるでしょ！

しゅんすけ：もう、うるさいな…。

### しゅんすけくんは、お母さんの様子をどう思っているのかな？

しゅんすけ：ママが～、なんか…宿題やっているのに、これやって、これやって、って言うから…。

どっちをやればいいのかわかんなくて、(ママの)言うことを聞きたくなくなる。

### 一方、ローズマリーさんの思いは？

ローズマリー：どこまで私が押さえばいいのか…。まったく言わなくなると、本当にやらないと思うので、その部分が難しいですね。

例えば他の子が2年になったらひとりのできるのを、しゅんすけの場合は3年生、4年生、もしかしたら卒業までかかるかもしれない。そこまで見てかなきゃいけないのかなと思うと…。

### しゅんすけくん、新学期の悩みは？

しゅんすけ：お母さんが心配かな…。

ローズマリー：(笑)

尾木：お母さん(笑)

ローズマリー：家に帰ってきて、ランドセルをすぐに開けて、中身をチェックせずにはいられないんですよね。心配で、癖になっちゃっています。

カピバラ：うちも同じく小3になる女子なのですけれど、学校に忘れてくる忘れ物っていうのが私も想

定外だったんですね。先手で、新しい漢字ドリルを持ってきたら全部コピーして、家にストックしておいて、対処しています。

尾木 : 甘い、甘い (笑)

カワウソ : うちもやっぱり忘れ物がすごく多くて。私の場合は言わないで放っておきます。

上履きは学校で貸してくれるんですよ。でも、それを私が洗わなきゃいけないという手間がかかる。だから、なるべく放っておくことはするんですけど、上履きは私に洗わせないでねと言っています。

高山 : 忘れ物を届けちゃいけない学校も多いみたいですね？

尾木 : 先生はよい点も悪い点も全部知りたいんですよ。もうね、任せておいてもらっているの。

これは大変な学習なのよ。だから僕なんかそういう子がいたら「やったぜ」なんてラッキーチャンスだと思う。じゃあ、みんなで考えてみなよ。君はこんなに迷惑かけた、本当に大変なことをしたんだよって。それをみんなで考えて克服するのが学校の仕事。それで給料もらっているのは先生よ (笑)

ローズマリー : 結局Cがつくと、子どもの評価なんですけれど、親の評価にもつながってくるような気がしてしまいます。なんか先生からこの家の親は何も見えていないのかしらって、思われてしまうのではないかって…。自分自身のプレッシャーですかね。それでつい、息子が忘れ物をしないようにガミガミ言ってしまう。

チェリー : 私もガミガミ親なんですね。忘れ物に限らず、もうすべてのことに関してとても期待が高くて。長女に関して、その期待のところまで来てくれないと、ついガミガミということが本当に多くて、そのガミガミって言った後には、とっっても自己嫌悪に陥っています。

高山 : ローズマリーさんが深くうなずかれています。

尾木 : それを聞いて、逆に僕なんか教師の立場から見ると、なんかほっとするっていうか。自己嫌悪って言うのは大事な感情だと思う。

ローズマリー : ちょっと、私がガミガミ言いすぎたかなってすごく思います。

尾木 : お母さんのほうから一筆連絡帳でもなんでもいいから、こんなタイプで忘れちゃうんですけど、なにかいいアドバイスあったら先生からもお願いしますとか、ひとこと書けばいいの。学校の先生と保護者は一体なんです。



高山 : さあ、続いてはですね。子どもたちがある工夫をすることによって忘れ物がなくなるという、つくしさんのご家庭ですね。こちらをどうぞ！

低学年の頃、忘れ物が多かったという、ひなつちゃん。

5年生の今でも、新学期は気持ちがそわそわして、忘れ物が増えてしまうという。

ひなつ：行ってきまーす。

玄関には、持ち物チェックのメモが貼ってある。

ひなつ：定期、携帯、ハンカチ、ティッシュ、ランドセル…。

え、ランドセル!?

それは、さすがに忘れないでしょう?

ひなつ：1年生の（新学期）のとき、「急げー」って言って玄関まで走ってきたら、あれ？ランドセルしよってない、みたいになったりして…。

つくし：新しい生活に慣れるのがすごくゆっくりで、注意散漫になるので、それが何に出てくるかと言うと「忘れ物」なんです。

そこでひなつちゃんは、忘れ物が多い自分のために、ある作戦を考えた。

使うのは付箋！学校から帰って来るやいなや、何やらメモを書き始めた。

ひなつ：頭で思っているだけだと、つい忘れちゃうから、忘れたくないものは、筆箱に付箋で書いて貼っている。

これは、忘れ物をしてしまうかもしれない明日の自分へのメッセージ。

学校で思い出したいことは、ランドセルの開いたところに付箋を貼る。

家を出る時に忘れたくない物は、ランドセルの表に付箋を貼る。





なるほど、こうして目につく所に貼っておけば、確認できるね。  
ひなつちゃんは、たくさんの付箋コレクションを持っている。

そう、ひなつちゃんは「付箋マスター」なのだ！



さらに・・・

(ひなつちゃん、5枚ほどのマスク取り出す)

あれ？マスク、何でそんなにいっぱい持ってくるの？

ひなつ：5枚。3年の時に、2日連続で忘れ物しちゃって…。それで怖くなったから、予備を持って行っている。

そう、もうひとつの工夫は「予備作戦」！

うっかり持って行くのを忘れても、カバンに予備があれば大丈夫。

靴下やハンカチまで予備を持って行っているのだ！

ひなつ：ランチョンマット、これも予備用です。

「忘れ物をなくす」のではなく、忘れ物をしても大丈夫なようにするのだ！

しかも！

ひなつ：なんか、友だちに忘れちゃった時に貸してって言われるから…。

つくし：最近、自分の予備というよりは、レンタル用になっているみたいです。

今や、人の忘れ物まで助けているひなつちゃん、君を「忘れ物マスター』と呼ぼう！

高山：ランドセルを忘れたっていうのは、衝撃的ですね。

つくし：そうですね。商売道具を (笑)

高山：パキラさんはどうですか？

パキラ：夜ランドセルをこっそり見て、忘れ物をしていないか確認します。

入れてあげないで、次の朝、あれ持ったの？と聞くんですよ。「あ、忘れた」って言って、自分で入れています。「だと思ったんだー」って言って送り出します (笑)

尾木：とてもいい橋渡しかもしれないわね。

高山：先ほど、つくしさんはご家庭では付箋が大活躍でしたけど、どうですか？ローズマリーさん。

ローズマリー：付箋を買ってこなくちゃ。

尾木：ちょっと待ってよ。それを買ってくるのも本人にやらせたほうがいいわよ。

そう！お母さんがそのうちはったりしたらダメよ。やりそうだよ。それから、しゅんすけくんなんか男の中の男よ。特に男の子は女の子と違って活動的ですから。友だちとの約束、あそこの遊びの場所をとろうだとかね、いろんなことで夢中なの。だから、ある意味すばらしいんですよ。

すずらん：それだけ遊びが楽しいっていうのもうらやましい気がします。

尾木：一刻を争って出ていくわけだから、すごいじゃない、ねえ？

高山：元気が一番 (笑)



新学期を迎えるにあたり、多くの人が不安に思っているのが「友だち」のこと。

すずらんさんのお悩みは？

うちの子は、クラス替えの度に、なぜか必ず仲のよい子と別れます。

クラス替えは毎年あるので、新学期は、親も子もとても憂鬱。

どうしたらいいでしょうか。

高山：すずらんさんもお悩みが？

すずらん：あの、毎年クラス替えがありまして、見事に仲のいい子と離れていきますので、娘も1学期はお友だち作りに苦労をしています…。

カピバラ：うちも毎年なんですよね。特にクラス発表の日は子どもと一緒に私が緊張してしまっています。どうだった？どうだった？って、私の方が子どもの帰りを玄関で待ちわびている感じです。

ローズマリー：娘もすごい仲のよいお友だちがいるんですけど、今まで4年間一緒になったことがないです。何か意図的にと言ったら変ですけど、先生の方で配慮してあえて分けているのかなって思います。

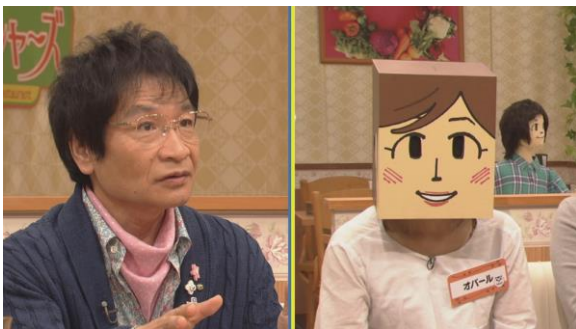
尾木：高学年だと仲よしグループは、分けます！

全員：えー！！

尾木：クラス替えっていうのはね、学校から見れば、基本的に40人の子どもがいたら、40人とも成長させたいわけ。その、仲がいい子が一緒にならなかったとかあるでしょ。これはね、小学校5年生から6年生になる時なんかには仲よし4人組を、一緒のクラスにしたら、学級は崩壊します。

それはね、自分たちの自己中心的な団結力ができてしまうからなのです。クラスでルールを決めたりしても、その子たちが、私たちは気に入らないというと、その4人は守らないわけ。高学年は。低学年はまた違いますけれど。

オパール：お友だちが「すぐケンカしてしまうので、それをどうにか配慮してください！この子とは同じクラスにしないでください！」って言ったら、その2人はそれから一緒のクラスにはずっとならなかったんですね。クラス替えとは、どんな仕組みになっているのかなって。言った者勝ちなのかな？って…。



尾木：あの子とはいじめられるから放してほしいとかいう意見も全部いったん受け止めます。いじめといじめられの関係は、教師も気がつかないこともありますからね。意見をもらって、なるほど、これはそうしないとまずいな、ちょっと私たちも気がついてなかったっていうのは、すぐに実現します。それぐらいいじめ問題っていうのは、大事なことですから。

ローズマリー：やんちゃな子はベテランの先生が当たるようにという配慮はされているんですか？

尾木：ベテランということでもなくて、この先生はあの子たち苦手だとか、この先生の言うことはきくとか、それは分析しているのよ。ものすごく緻密ですよ。

ローズマリー：そこまでやるんですか？

尾木：そこまでやっているわよ！

すずらん：新しい学年の先生たちが決めているのですか？それとも、古い学年の先生たちが決めているのですか？

尾木 : 古い学年よ。それはもう当然。

これは、中学校で言えば2日間ほど、夜の10時ぐらいまでかけてやります。夜はカツ丼を取って(笑) それぐらいね、真剣勝負なのですよ。

すずらん : 今まで希望を出したことはないのですけれど、出してもいいものなのですか？

尾木 : 希望は出してください。ただ、それが実現するとは決まってないのよ。でも、ああ、こういう希望を持っているのだからというのが貴重な情報ですから。情報は僕ら教師の方は、いっぱいもらえるほどありがたいの。



つづいては、オパールさんからの悩み。

新しく出会う先生が、「困った先生」だったらどうしよう…。

去年の新学期のこと。

新しく担任になったのが、授業中にチョークを投げたり、机に足を投げ出したりする困った先生でした。子どもは、先生との信頼関係をまったく築くことができず、結局1年間、何も言えずに我慢して過ごしました。

今年の新学期にも同じことが起こるかと思うと、不安でなりません。

オパール : 物を投げるとか、机の上に足を置かれるっていうのは、子どもに対して、私もフォローが出来なくて…。すごく変な先生なんだったって子どもに言われても、先生ちょっと体調悪いからかなというふうには言えないと思いました。

先生のことを嫌いにならないように、フォローのしようもなくて…。結局この1年間学校に何も言えない状態でした。もし、言うにしても誰にお伝えしたらいいのか、担任の先生なのか、校長先生なのか、または教育委員会の方なのかもわからなくて…。

尾木 : 校長先生におっしゃるのが一番で、それは告げ口とか言う意味でなくて、知ってほしい情報だと思いますから、それはどんどんおっしゃっていただいといますよ。

その中に、わがままなのがあったっていいのですよ。ああ、やっぱりすずらんさんわがままだったというのでばいって捨てられるだけ(笑)

すずらん：そうになったら嫌だなと思って。

尾木：思われてもいいじゃない？

チェリー：モンスターペアレント扱いっていうか。

尾木：モンスターペアレントはある意味で大歓迎なの。モンスターにはならなきゃだめで、ものの言い方。だからこれはやめてください！というのではなくて、これはどうなのでしょう？とか、ちょっと心配なのですが…とか、言い方に気をつけてみて。

すずらん：先生にもお考えがあるのかなと、ちょっと大人のふりをしてしまって。

尾木：あの、モンスターペアレントという言葉があんなに流行らせたのは僕なんですよ。ちょっと責任感しているのよ。

高山：それが皆さんの足かせになっていますよ。

尾木：こんなに違う方向になると思ってなかったの。

パキラ：どこの学校も、そうやって受け入れてくれるんですかね？面倒くさいことは嫌だよってならないですか？先生方は忙しいから…。

高山：窓口を閉じているっていうことはあるかもしれないですね。

尾木：そういうところは問題だ(笑)  
だから、担任の先生を育てるのも、学校を育てていくのも、結構地域とか保護者の力が大切なんですよ。だから、決してわがままでもなんでもなくて、大切な意見なのよ。

オパール：言っちゃっていいのだと、ほっとしました。

高山：ローズマリーさんには、今日はまだ序盤から、家庭内も見せていただきました。

尾木：忘れ物も1つの人生経験で、乗り越えて大きく人間的に成長できるんだぐらいに、どんと構えていましょうよ。

ローズマリー：少し気持ちが楽になりました。もうちょっと息子を信じて、ちょっと本人に任せてみようと思います。

尾木：お母さんはどんと構えて、新学期は子どもが飛躍する時期だというふうに思ってください。

高山：ピンチはチャンス！

尾木：そうです。

ウワサの保護者会は、これからも、子育てにまつわる様々なテーマをお送りします。お楽しみに！  
みんなの知恵が集まる、ホームページも必見！

(終)